

おやまわたらせ ワイズユースビジョン

概要版



1 計画概要

1-1 計画策定の趣旨

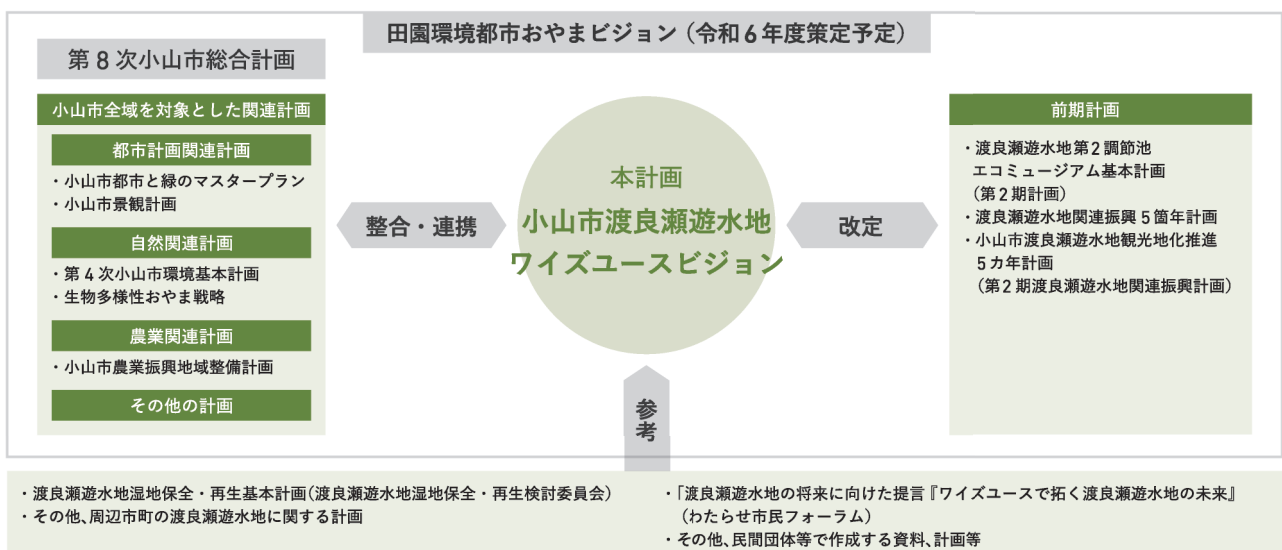
- 「第2期渡良瀬遊水地関連振興計画」から5年以上が経過し、今後の渡良瀬遊水地及び周辺地域における将来像を設定するとともに、推進すべき具体的な施策を検討・実施し、取組を更に深化させていくことが重要です。
- 長期的な視点を入れ込んだ「田園環境都市おやまビジョン」の策定を予定しており、市域に含まれる渡良瀬遊水地及び周辺地域の自然環境や伝統文化を守り、将来にわたって活かしていくため、30年先の姿を設定し、これに向かう方針、施策が必要となっています。
- これまでの施策事業の進捗状況等を検証しつつ、地域住民等の意見を把握しながら、「おやまわたらせワイズユースビジョン」を策定し実践することで、持続可能な地域づくりを推進していきます。

ワイズユースとは、健全な湿地から得られる恵みを、生態系に配慮して持続可能な形で利用することです。漁業や農業などの産業での利用はもちろんのこと、憩いや遊びなどの場としての文化的な利用も当てはまります。ワイズユースは豊かな湿地の恵みに支えられているため、湿地を健全な状態に維持し、回復させる保全や再生の取り組みも重要となります。

出典：環境省 WEB サイト <https://www.env.go.jp/nature/ramsar/conv/pamph04/index.html>

1-2 計画の位置づけ

- おやまわたらせワイズユースビジョンは、市制100周年を迎える2054年の本市のあるべき姿を描く「田園環境都市おやまビジョン」の実現に向け、第8次小山市総合計画を上位計画としつつ、関連する各計画と整合を図りながら策定します。
- 30年後の渡良瀬遊水地および周辺地域の姿を将来像として設定し、それに向けた10年間で実施する施策を定めます。



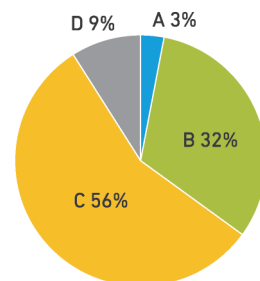
1-3 計画期間

30年後の姿を将来像として設定し、将来像に向かって、10年間で実施する施策を定める計画とします。

2 第2期計画の検証（検証年月：令和5年5月）

2-1 小山市渡良瀬遊水地観光地化推進5カ年計画の検証

- A：概ね実施できた(1/34)
- B：半分以上は実施したが、一部改善の余地あり(11/34)
- C：大部分が実施できておらず、改善又は施策見直しの必要性あり(19/34)
- D：全て実施できていない又は事業を中止した(3/34)

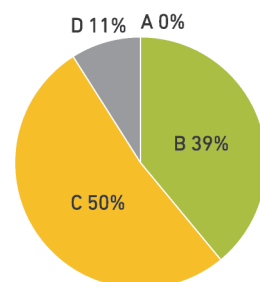


継続的に実施する主な施策

コウノトリ交流館の機能不足	→	ZONE 1	1. コウノトリ交流館の整備
地域を一体的に捉える整備不足	→	ZONE 1	6. エコツーリズムの推進
		ZONE 3	17. スポーツ・レクリエーションの推進
遊水地及び周辺地域のアクセス向上	→	ZONE 2	8. 渡良瀬遊水地周辺のアクセス道路整備
遊水地の環境保全	→	ZONE 3	12. ヨシ原の再生に関する調整
		ZONE 3	13. 湿地保全活動の実施
		ZONE 3	16. コウノトリ・トキの個体保護

2-2 渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画（第2期計画）の検証

- A：概ね実施できた(0/18)
- B：半分以上は実施したが、一部改善の余地あり(7/18)
- C：大部分が実施できておらず、改善又は施策見直しの必要性あり(9/18)
- D：全て実施できていない又は事業を中止した(2/18)



継続的に実施する主な施策

未実施の遊水地の保全・整備	→	ZONE 3	12. ヨシ原の再生に関する調整
	→	ZONE 3	13. 湿地保全活動の実施
	→	ZONE 3	20. ゾーニング管理の実施
その他未実施の水関連事業	→	ZONE 1	2. 旧思川の整備、導水調整
今後の担い手確保	→	ZONE 5	23. 周辺地域や関係者との連携、協力
		ZONE 5	24. ガイドの養成・生涯学習支援

3 計画の目標

3-1 目指すべき将来像

- 渡良瀬遊水地は、周辺地域に暮らす方々の生活や社会活動に深く関わっており、この貴重な湿地環境を守り、引き継いでいくためには周辺地域と一体的に将来像を考えていくことが必要不可欠です。地域の方々と共に「ワイズユース」という理念を基に行動し、湿地生態系の機能や湿地から得られる恵みを継続的に享受しながら、地域の暮らしがより豊かになることを目指して、渡良瀬遊水地の30年先の姿を設定します。
- 30年先の姿は、治水機能を維持しつつ、渡良瀬遊水地及び周辺地域の特性や現状、特に第2調節池や旧思川の昔からの生態系に配慮して「人も自然も育まれ、いのちつながる渡良瀬遊水地」を実現することをテーマに掲げ、次のとおり設定します。

人も自然も育まれ、いのちつながる渡良瀬遊水地

人と自然が互いに良い影響を与えながら成長し、魅力的な場となることで関わる人も増え、人と人、人と自然のいのちのつながりが生まれ、好循環をもたらすことを目指します。



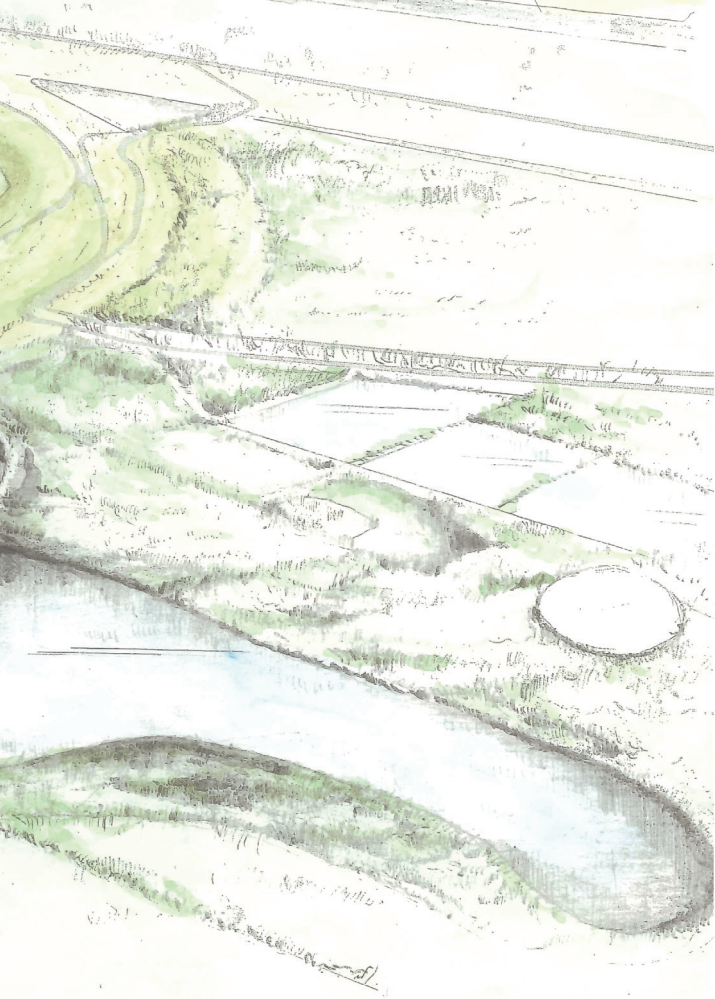
ヤナギ・セイタカアワダチソウ除去作戦やヨシ焼きが継続的に行われており、高品質なヨシのある遊水地の広大な風景は変わらずに地域住民の心のよりどころとなっています。



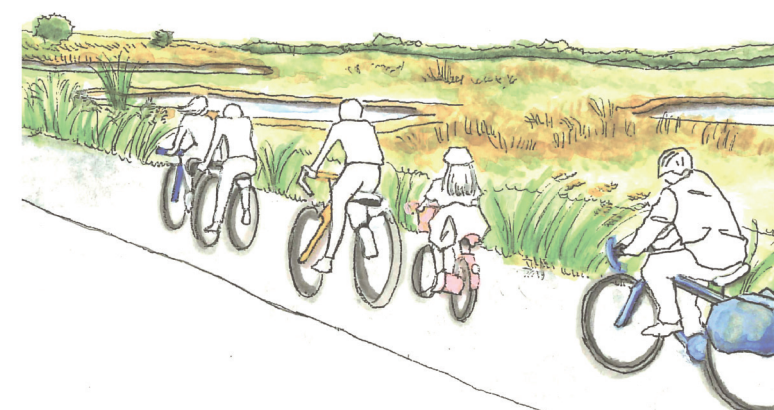
渡良瀬遊水地第2調節池の周辺では子ども向けに生き物調査や、ヨシを利用した体験・観察プログラムなどのフィールドワークが活発に開催されています。



市民農園の収穫体験で採れた野菜を使った料理教室が開かれています。地域のお年寄りが講師となって子どもたちに料理を教えており、地域も世代も超えた交流の場となっています。



新たな交流拠点では、サイクリングターミナルも設置されており、渡良瀬遊水地は多くの来訪者でにぎわっています。



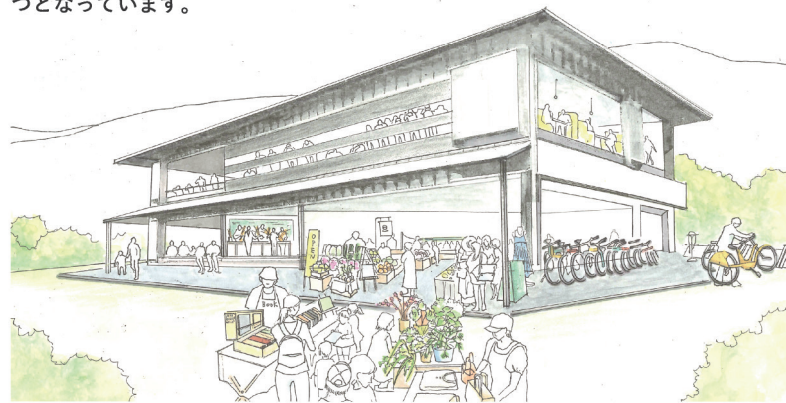
旧思川は、親水公園として生まれ変わり、多くの人でにぎわっています。綺麗な水が流れていて、水辺のレジャーを楽しんでいる人がいたり、子ども向けに水中の生き物調査などの環境教育をはじめとする自然塾が開かれていたりします。



農産物直売所では、地元の農家さんが生産した農産物はもちろんのこと、生井地区の市民農園で地区外の方が作った野菜も売られています。



渡良瀬遊水地に訪れた人が気軽に立ち寄れるように、コウノトリ交流館は堤防の上に移転をしました。緊急用の資材を備蓄しておく倉庫や農耕車などを避難させておく防災ヤードと併設され、休日にマルシェが開かれており、地域住民が集まるきっかけのひとつとなっています。



エコツーリズムガイドが同乗したグリーンスローモビリティが渡良瀬遊水地内を走行し、解説を聞きながら渡良瀬遊水地の広大な自然を味わい、背景にある歴史を学ぶことができます。



3-2 ゾーニング

渡良瀬遊水地の30年先の姿を実現するため、渡良瀬遊水地と周辺地域を一体的に振興することとし、5つのゾーンに分けました。

ZONE

1

コウノトリ交流館 旧思川周辺地域



- ・コウノトリ交流館の整備
- ・旧思川の整備・導水調整
- ・周辺移動手段の整備
- ・ヨシの利活用
- ・関連商品の開発
- ・エコツーリズム
- ・魅力発信

ZONE

2

下生井小学校 あんずの里 桜づつみ公園地域



- ・周辺のアクセス道路の整備
- ・快適に利用する環境の整備
- ・下生井小学校を中心とした環境教育モデルの構築

ZONE

3

第2調節池 環境学習フィールド3 等 渡良瀬遊水地の小山市域範囲



- ・ヨシ原保全、再生の調整
- ・獣害対策
- ・外来生物や樹林化対策
- ・コウノトリ・トキの生息環境の保全・再生
- ・スポーツ・レクリエーション利用
- ・主体的な保全活動の支援
- ・遊水地内のアクセス向上

渡良瀬遊水地
第2調節池

生井
桜づつみ
公園

環境学習
フィールド3

ZONE
3

谷中湖

主要道路

主要河川



3-3 将来像実現のための行動理念

全体の将来像を実現するために、それぞれの行動理念を設定します。

ZONE 1 コウノトリ交流館・旧思川周辺地域

- 行動理念
- ・コウノトリ交流館の機能の充実をはかるため、「ワイズユース」の新たな拠点施設の整備
 - ・【興味⇒体験⇒学び⇒保全】の好循環を生むための取組を実施

ZONE 2 下生井小学校、あんずの里、桜つつみ公園地域

- 行動理念
- ・魅力的なスポットを連携し、一体的に利用するための整備
 - ・下生井小学校を中心とした環境教育モデルの構築

ZONE 3 第2調節池環境学習フィールド3等渡良瀬遊水地の小山市域範囲

- 行動理念
- ・ヨシ原の保全に取り組むとともに、関係者と連携したゾーニングや、外来種対策、鳥獣害対策、湿地保全活動等を実施
 - ・自然体験から楽しさや学びを得て、より深く知り、保全につながるようなエコツーリズムや環境教育、普及啓発、交流の推進

ZONE 4 生井地区、寒川地区の農地

- 行動理念
- ・「ふゆみずたんぼ」、「なつみずたんぼ」、「生井っ子」等の農薬や化学肥料を低減する稲作等の環境にやさしい農業の支援

ZONE 5 周辺市町、関連する広域地域

- 行動理念
- ・渡良瀬遊水地周辺の4県4市2町と連携した広域的な交通の利便性の向上
 - ・イベントの共同開催や交流活動の展開など、渡良瀬遊水地関連の地域づくりの推進
 - ・ラムサール条約登録湿地やコウノトリ・トキの野生復帰地域としての国内外を問わない広域的に連携した取組の推進

3-4 施策の体系

各ゾーンの行動理念を基に、下記の施策を実施します。

ZONE 1 コウノトリ交流館・旧思川周辺地域

- 施策
- ◆ 1. コウノトリ交流館の整備
 - ◆ 2. 旧思川の整備、導水調整
 - 3. 渡良瀬遊水地及び周辺地域の移動手段整備(グリーンスローモビリティ、レンタサイクル)
 - 4. ヨシの利活用機会の創出
 - 5. 渡良瀬遊水地、コウノトリ関係商品の開発販売促進
 - ◆ 6. エコツーリズムの推進
 - ◆ 7. 渡良瀬遊水地及び周辺地域の魅力発信

ZONE 2 下生井小学校、あんずの里、桜つつみ公園地域

- 施策
- 8. 渡良瀬遊水地周辺のアクセス道路整備
 - ◆ 9. 快適に利用するための環境整備
 - ◆ 10. 下生井小学校を中心とした環境教育モデルの構築

ZONE 3 第2調節池環境学習フィールド3等渡良瀬遊水地の小山市域範囲

- 施策
- ◆ 11. ヨシ原保全、ヨシ焼き継承支援
 - ◆ 12. ヨシ原の再生に関する調整
 - ◆ 13. 湿地保全活動の実施
 - 14. イノシシやシカ等の鳥獣対策の実施
 - 15. 外来生物や樹林化の対策
 - ◆ 16. コウノトリ・トキの個体保護
 - ◆ 17. スポーツ・レクリエーション利用の推進(水辺遊び、サイクリング、ボート等)
 - ◆ 18. 主体的な保全活動の支援
 - ◆ 19. 渡良瀬遊水地内のアクセス向上
 - ◆ 20. ゾーニング管理の実施

ZONE 4 生井地区、寒川地区の農地

- 施策
- ◆ 21. 環境にやさしい農業の推進

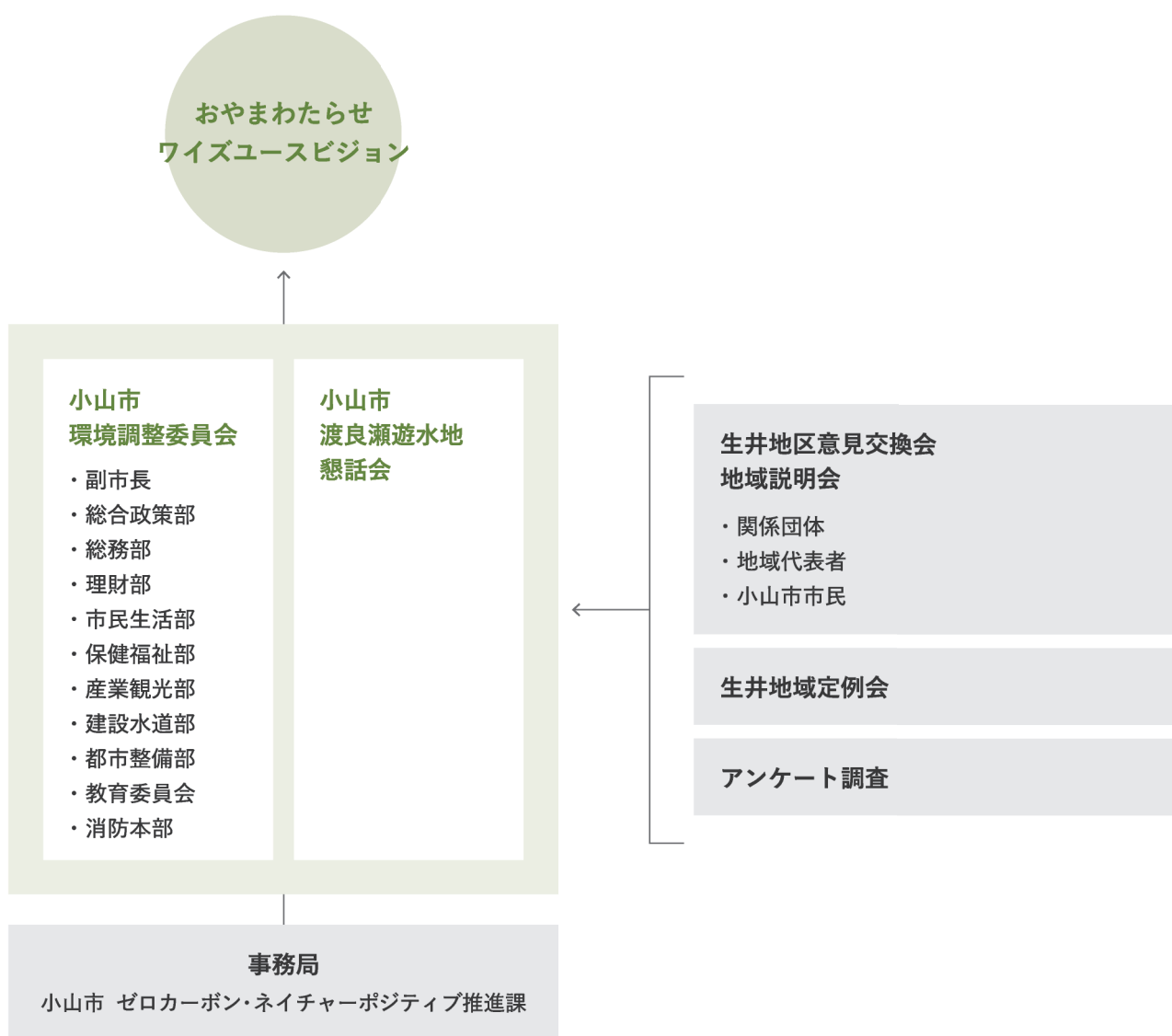
ZONE 5 周辺市町、関連する広域地域

- 施策
- 22. 二次交通の整備(コミュニティバス)
 - ◆ 23. 周辺地域や関係者との連携、協力
 - ◆ 24. ガイドの養成・生涯学習支援
 - 25. 関連サイトとの広域連携

* 数字前の◆は渡良瀬遊水地第2調節池エコミュージアム基本計画の継承・統合施策
ゾーンごとに主な施策を示しており、同じ施策のうち複数のゾーンに該当する場合があります。

4 策定体制

本計画の策定にあたり、小山市環境調整委員会及び小山市渡良瀬遊水地懇話会において協議・検討を実施し、計画書を取りまとめました。また、渡良瀬遊水地関係団体・市民等の意見を反映するために、意見交換会、地域説明会、アンケート調査を実施しました。



1 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館のあり方検討の目的

令和12年3月の土地建物使用貸借契約終了に向けて、渡良瀬遊水地や周辺地域の魅力の発信を通じて、交流人口の増加や地域活性化に資する場所となるように周辺地域を含めた施設のあり方を考えることを目的とします。

2 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館のあり方の方向性について

2-1 求められる役割・機能の整理

コウノトリ交流館のあり方としては、立地特性などの潜在的特性を活かしながら、施設機能や維持管理、アクセス等の課題に対応することが必要です。

現況	求められる役割・機能	方向性
立地・誘導 ・下生井集落 ・旧思川(生井ふるさと公園等)に近接	立地・誘導 ・利用案内の充実 ・情報提供の充実 ・公共交通機関によるアクセス向上 ・大型バス等アクセス向上	・アクセス向上 ・エコミュージアムとしての機能の充実 ・生井の地域の歴史や文化に触れあうことのできる体験の充実 ・研修の場としての活用 ・季節に応じたコウノトリの情報の充実 ・渡良瀬遊水地の自然の魅力の発信 ・地域の歴史や文化を伝える地域資源の活用 ・市民の休憩場としての整備 ・ユニバーサルデザインの整備 ・エコツーリズムの推進 ・地域産物(ヨシズ・堆肥等)の活用 ・飲食物、グッズ開発、販売促進 ・農産物のPR ・移住・定住化の促進 ・イベントの充実 ・適切な管理運営体制の構築
施設・展示 ・コウノトリや遊水地の紹介動画 ・コウノトリの生態や渡良瀬遊水地の自然、歴史、文化の解説パネル ・コウノトリの剥製 ・写真展示 ・バードカーピング ・ワークショップ作品	施設・展示 ・展示スペースの確保 ・研修スペースの確保 ・分かりやすい展示の充実 ・展示物・資材保管スペースの確保 ・屋外のオープンスペースの確保 ・作業スペースの確保 ・空調等の施設整備 ・休憩、飲食可能なスペースの確保 ・飲食物等の提供可能な設備の確保 ・修景に配慮した屋外トイレの再整備 ・避難情報の提供 ・耐震性の確保 ・調査研究機能の充実 ・案内誘導機能の充実 ・駐輪場や駐車場の適切な確保 ・バリアフリー対応 ・多言語対応 ・地域の歴史文化に配慮した施設整備	
普及・PR ・グッズ販売 ・コウノトリの情報発信	普及・PR ・物販及び販売促進 ・施設の情報発信	
管理・運営 ・案内・情報提供 ・自然及び人文解説 ・自然とのふれあい体験の指導・促進 ・物販 ・イベント開催	管理・運営 ・施設の長寿命化 ・イベント等行事の充実 ・飲食物販事業の促進 ・周辺の地域資源との連携 ・地域活性化の促進	

3 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の敷地検討

3-1 検討の条件

- 昨年度のアンケート調査の結果では、「現在の場所で施設を充実させる」といった回答が最も多く、次いで「分からない」となりました。コウノトリ交流館の現況敷地の継続使用の場合は、地権者との協議を行う必要があります。
- コウノトリ交流館の敷地の検討に当たり、求められる周辺施設の条件等を以下に示します。
 - a. 渡良瀬遊水地第2調節池へのアクセスが良いこと。
 - b. 交流拠点及びエコミュージアムの拠点としての立地にふさわしいこと。
 - c. 現施設等の課題を解消し、利便性を高められること。

3-2 候補地の比較

これらの基本的な条件に併せて、生井地区内の候補地を選定したところ、以下の①～⑤が具体的な候補地として選定されました。候補地の概要については次のとおりです。

コウノトリ交流館の候補地の一覧

番号		①	②	③	④	⑤
施設名称		コウノトリ交流館	渡良瀬遊水地 小山養魚場	下生井小学校	生井公民館	防災ヤードと併設
法的条件等	都市計画法	・市街化調整区域	・市街化調整区域	・市街化調整区域	・市街化調整区域	・市街化調整区域 ・都市計画河川
	その他 都市計画関係	・小山市条例により設置可能 ・開発許可での設置可能	・小山市条例により設置可能 ・開発許可での設置可能	・小山市条例により設置可能 ・開発許可での設置可能	・小山市条例により設置可能 ・開発許可での設置可能	・小山市条例により設置可能 ・開発許可での設置可能
	農振法	農業振興地域	農業振興地域	農業振興地域	農業振興地域	－
	農地	一部農地	－	一部農地	－	一部農地
	河川法	－	－	－	－	河川区域及び河川保全区域
	洪水ハザードマップ(最大浸水深)	5.0～10.0m(石蔵は3.0～5.0m)	5.0～10.0m	5.0～10.0m	5.0～10.0m	－
	配慮事項	・所有者との調整を要す ・農地の変更手続きが必要 ・浸水想定区域内	・浸水想定区域内	・国への手続きが必要 ・児童の安全性、教育環境の確保を考慮する必要あり ・学校管理者との調整を要す ・利用する敷地の決定が必要 ・農地の変更手続きが必要 ・浸水想定区域内	・小山市条例の改正を要す ・浸水想定区域内	・管理者の同意や許可が必要 ・農地の変更手続きが必要 ・国との協議を要す
敷地の条件	敷地及び周辺環境・眺望	・古民家を活用している。 ・正面の水田にはコウノトリが飛来する。 ・石蔵からは旧思川が見える。	・周囲を水田が囲む。	・小学校が立地している。 ・東側は住宅地、西側の水田ではコウノトリが採餌することがある。	・公民館が立地している。 ・周囲を水田が囲む。一部ソーラーパネルあり。	・西側に桜づみ公園が整備されている。 ・渡良瀬遊水地が一望できる。
評価	規模	○	△	△	△	○
	施設へのアクセス	△ 大型バスは近隣に駐車	○	△	○	○
	フィールドへのアクセス	△	△	△	△	○
	周辺環境	○	△	○	△	○
	法的条件	△	○	△	△	△
	整備コスト	○	△	○	△	△
総合評価		○	△	△	△	○

渡良瀬遊水地コウノトリ交流館移転候補地の現況



3-3 候補地の絞り込み

候補地の検討では、「①コウノトリ交流館」及び「⑤防災ヤードと併設」の評価が高くなりました。

また、令和6年9月に開催された「第1回 小山市渡良瀬遊水地懇話会」及びその後のアンケートによる意見聴取において、候補地としては「⑤防災ヤードと併設」が最も多い結果となりました。

以上の候補地の絞り込みを踏まえ、敷地については、「①コウノトリ交流館」及び「⑤防災ヤードと併設」を対象に検討を進めることとします。

ただし「⑤防災ヤードと併設」における整備にあたっては、以下の点が課題として挙げられます。

- ・河川区域内に施設等を設置する場合には、河川法の許可が必要となる。
- ・防災ヤードとの併設に向けた施設建設に伴う造成の検討が必要となる。

4 目指すべき将来像

4-1 将来像

渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の特性や現状の課題、果たすべき役割を踏まえ、「自然環境」、「歴史文化」、「教育・交流」の3つの視点から30年後の将来像を以下に示します。

将来像

ラムサール条約湿地と人をつなぐ湿地保全・交流拠点

4-2 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の基本方針

「30年後の渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の将来像」を目指していくための基本方針を以下のように設定します。

基本方針

ラムサール条約湿地渡良瀬遊水地の自然環境やそこに集まるコウノトリをはじめ季節に応じた希少な動植物の価値や魅力を発信することにより、エコツーリズムを推進し、地域内外からの多様な交流を促進し、交流人口の拡大を図ります。

また、地域産物や農産物等を活用したイベントの充実や、地域の歴史や文化体験の提供により、地域活性化につなげます。

渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の基本方針

① 魅力の発信

- ・ 渡良瀬遊水地の自然の魅力の発信
- ・ 季節に応じたコウノトリをはじめとする自然環境の情報 の充実
- ・ 生井の地域の歴史や文化に触れあうことのできる体験 の充実
- ・ 環境教育・研修の場としての活用

② 交流人口の増加

- ・ アクセス向上及びユニバーサルデザインの整備
- ・ 市民の休憩場としての整備
- ・ エコミュージアムとしての機能の充実
- ・ エコツーリズムの推進

③ 地域活性化

- ・ イベントの充実
- ・ 地域産物（ヨシズ・堆肥等）の活用
- ・ 農産物のPR
- ・ 地域の歴史や文化を伝える場としての活用
- ・ 移住・定住化の推進
- ・ 適切な管理運営体制の構築

5 渡良瀬遊水地コウノトリ交流館の整備

5-1 整備の方向性

取組み時期	内容
I 2025～2030 年	・令和12(2030)年3月までの使用貸借契約に向け、契約更新。 ・自然・歴史・文化情報や周辺エリアへの回遊を促す情報発信機能の強化、周辺施設との観光交流と回遊の促進を図る。 ・現施設の強みを生かし、周辺も一体として、観光バスの乗降場や駐車場等の整備をはじめ、レンタサイクル等の活用を検討する。
II 2031～2035 年	・防災ヤードの併設に向けた法規制への対応について国と協議するとともに、将来に向けて、移転先候補地の検討、施設用地の取得及び、整備方針の検討等を進める。 ・新たな交流施設の基本設計、実施設計、整備の実施を進める。
III 2036 年以降	・既存施設からの移転等のほか、管理体制の構築に取り組む。

5-2 必要とされる機能及び短期的な取り組みの方針

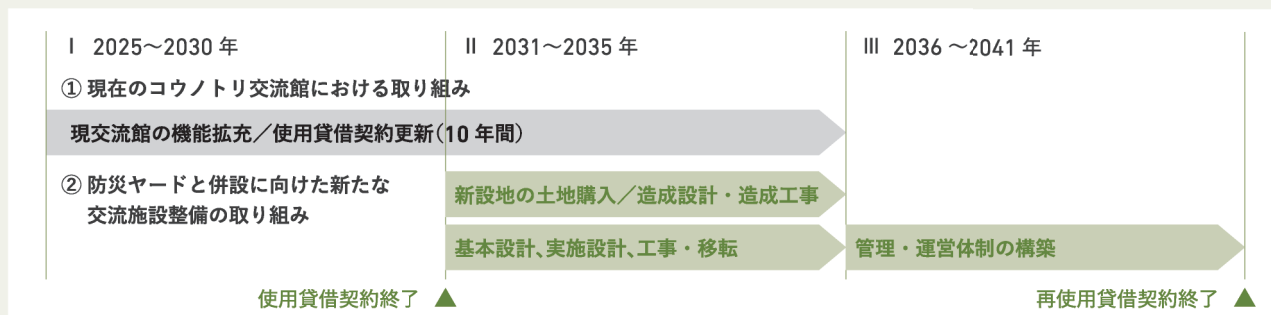
機能	取り組みの方針
案内・情報提供	・周辺施設と連携した情報発信や、案内機能の充実化を図り、周遊性を向上します。
自然及び人文の解説	・渡良瀬遊水地の自然や周辺地域の歴史についてストーリー性のある充実した展示を行い、国内外を問わず、多くの来訪者に、多様な歴史文化・自然環境への理解の促進を図ります。
体験の支援・誘導	・地域の農業文化や食文化に係るイベント、行事を充実させます。
休憩・便益・防災場所	・展示棟において確保されている屋内の休憩・飲食可能なスペースについて周知をはかり、利用を促進します。
調査・研究	・コウノトリをはじめとする渡良瀬遊水地の動植物情報の収集を行います。
管理・運営	・施設の劣化が生じている箇所について、修繕します。

5-3 施設の配置方針

- ・利用者の利用動線に配慮し、さらに、施設全体の賑わい創出に寄与できる配置とします。
- ・子どもや高齢者などが利用しやすいように、授乳室やベビーカー置き場、飲食コーナー等、必要とされる機能を適切に配置します。
- ・湿地保全活動や自然観察等の野外活動の動線を考慮した配置を検討します。
- ・防災ヤード利用時の移動動線や車両動線、安全面に配慮します。

5-4 コウノトリ交流館の整備スケジュール

防災ヤードの造成などと調整を図りながら、30年後の将来像の実現に向け短期、中期、長期の各期間で以下の取り組みを進めます。





おやまわたらせ
ワイズユースビジョン
概要版

令和7(2025)年3月
小山市



おやまわたらせ
ワイズユースビジョン



小さな自慢が
山ほどあります